

日本の子どもの学力低下が、呼ばれて久しい。また、ここ最近の社会状況や風潮を見ますと、私は不安なことがあります。特に、ここ二十年くらいは、子どもを取り巻く社会状況が悪化しているように思えます。

環境面からは、少子高齢化、価値観の多様化、耐性の欠如、自然・社会体験の不足、社会不適応な若者の増加、不登校児童の増加、自然環境の破壊、飽和状態の情報や物、メールやネット系の犯罪、人の心を欺くおれ詐欺事件、陰惨ないじめ等々、社会面でもめまぐるしく変わる政治情勢、迫りくる外国人の脅威、安定しない教育改革、経済面でもリストラ・就職難、パート・フリーの大震災、たくさんの災害被害等々、子どもたちの現在、未来にとつてよい生

活・社会環境ばかりとは言い難いのです。一方、これから十年後、二十年後を考えますと、合理主義、効率主義は一層進み、情報化、グローバルな社会が必ず訪れます。日本人にとって、日本語と英語が日常語になり、世界がより近くになることでしょう。たくさんの日本人が世界に羽ばたき、自分たちの身近な人たちからも優れた国際人が輩出されるかもしれません。また、一方、地域のために素晴らしい手腕を發揮し、地元の活性化や発展に尽力、貢献する人がたくさんいるかもしれません。私は、そうあって欲しいと望んでいます。これらの教育は、そんな不安と希望が混ざるしく変わる政治情勢、迫りくる外国人の脅威、安定しない教育改革、経済面でもリストラ・就職難、パート・フリーによる経済格差、慢性不況の中での大震災、たくさんの災害被害等々、

中越地震の復興とともに、新潟県の子どもたちの現在、未来にとつてよい生



## これからのお育に

教育学部同窓会副会長 大山 明雄

# 教育新報

新大教育学部同窓会  
第168号 徹  
発行人事務局 安達新潟大学  
教育学部内 TEL(025)263-6760  
印刷所 (株)文久堂

子どもの学力向上の兆しが見えてきました。それは、県の教育関係者、特に一人一人の教職員の本気度にほかなりません。子どもに「分かる授業」を合言葉に同僚との教材研究、授業改善に取り組み、小・中学校、保護者との連携を強める等のたゆまぬ努力の成果にはかなりません。

これからも一層の学力向上が求められています。本格化するITC教育、英語教育、授業のUDL化、不登校児の減少策、いじめ防止への対応、家庭、地域への啓発活動等々やらなければならぬ課題は、山積みです。その課題解決には、新しい教育システムや教育課程づくりは当然必要であり、国、県の方針や計画の具現化が求められます。そのシステムに心と栄養を与え、子どもとともに学び続ける教師づくりが必要不可欠なのです。

新潟大学教育学部同窓会の会員に大いなる期待と希望を感じています。これから新しく仲間入りする者も含めたたくさんの中輩たちは、情熱ある先輩たちの一挙手一投足に目を見張り、よき点を自分の糧にしてほしいです。多くの先輩たちは、後輩を温かく見守り、時に叱咤激励し、後輩の真摯に学び、成長していく姿をとおして、自分の成長の糧にしてほしいものです。そんな同窓会の仲間づくりこそがからの教育に求められている力を生み出します。

## 花鳥風月

平成十六年十月二十三日午後五時五十六分、決して忘れることがないあの日から十年がたつ。

平穏な一日が過ぎようとしていたその時、全く予想もしていなかつた災害に出会い、日常生活が断ち切られた。

小千谷市で震度六強。その後余震が二ヶ月以上続く。

ライフラインがズタズタに破壊されてしまつた中、近所町内で共同炊事をしたり、規則正しい避難所生活を送つたりして見たり、聞いたりすることができた。市内に大勢のマスコミが入り、インタビューをしたが、市民は必ずと言っていいほど各方面からの支援に感謝の言葉を述べていた。

小千谷の避難所を見舞つた後、総務大臣が市長と話し合つたエピソードがある。被災して一週間もたつとイララが生じ、大抵の場合、避難所生活者から文句や時には罵声を浴びせられるが、ここでは違つた。逆に「おつかれさんです」などとお礼を言われ、こちらが感激してしまつたとのこと。

雪が培つた忍耐力、地域の連帯感、感謝する心。新潟県民のすばらしさは、十年たつた今も残つている。

## 新潟大学教育学部同窓会

# 第四十一回同窓生の集い

研修部長 渡辺 真也

九月二十日(土)、チサンホテル&コンファレンスセンター新潟にて「未来を担う子どもたちの創造力を育てるために」と題して新潟市こども創造センター館長の浅井俊一様から講演をいただきました。

### 一 記念講演会

(一) 開会の挨拶  
安達徹会長から講師の紹介を兼ねて  
挨拶をいただきました。講師の浅井先



(感性+知性) × 目的意識・創造意欲=創造力

とは (感性+知性) × 目的意識・創造意欲=創造力である  
そうです。子どもの創造力を育てるためには、子どもの発達段階に合わせて、この割合を変えて刺激をしていくことが重要です。大人になればなるほど感性は鈍くなります。  
小さい子どもの時に、感性を高めることで創造力が育ちます。自分で考えさせず、上手な作品を模倣させているだけでは、子どもの創造力を育むことにはなりません。優れた作品やクリエーターに直接触

生は教育学部高田分校を卒業後、県内各地の中学校に美術教師として勤められました。五泉中学校校長を最後にご退職され、現在は新潟市こども創造センターの初代館長を務めています。新潟県立美術館の副館長のご経験もあり、美術教育の第一人者です。

### 二 記念講演

浅井館長曰く、「創造力」

れさせていくことで、子どもの感性や知性が刺激され、創造力が高まるはずであると話されました。  
また、長岡与板中や新潟金津中で地域と共に取り組んだ美術教育の実践や、県立近代美術館の副館長として、「借りぐらしのアリエッティ展」の展示を工夫したことなどを紹介してくださいました。

例年の会場とは違う会場での講演会でしたが、図工・美術教育関係の方や、幼稚園の教諭、大学生など、飛び込みで訪れた一般市民の参加者も多く、大盛況のうちに講演会は終わりました。参加者からは、とても充実した講演だったと感想をいただきました。



# 第41回 同窓生の集い

## 二 懇親会

(一) 開会の挨拶 安達徹 会長

(二) 祝辞 柳沼宏寿 副学部長

最近の新潟大学の動向などのお話を交えて、ご祝辞をいただきました。

(三) 乾杯 藤井保男 顧問

(四) 懇親会 佐藤重勝 顧問

(五) 万歳三唱 白杵勇人 副会長  
(六) 閉会の挨拶

近年、懇親会の参加者が少なくなっています。年に一度の同窓生の集いです。同窓生ならどなたでも参加できますので、来年度はたくさんの皆様のご参加をお待ちしています。ぜひ旧交を温めましょう。



柳沼宏寿副学部長の祝辞

# 会員の広場

## アルバイト

長岡市立越路小学校  
上村 知子新潟市立下山中学校  
江村 大成

## 教員として、親として

### 大切な三年間

### 二十三年ぶりの登山

加茂市立七谷小学校  
大野 美佳阿賀野市立水原小学校  
富樫 晃

大学を卒業し、教員として十七年。父親となり十年。少しは人生経験も増えてきました。

教員生活を振り返ると、二十代のころと今とでは、子どもや保護者との接し方が変わってきた気がします。

大きな変化は、やはり、自分も親になつたことだと思います。親の立場からみた子どもは本当にかわいい。その大切な子どもたちを預かっている以上、

学校の責任もとても大きなものとなります。

また、学校の子どもたちに起こる問題は、自分の子どもにも起こりうることです。教員として、子どもたちや保護者と接していく中で起こる問題が、親としての視点からも考えるようになりました。

実際に、今ちょっとした時に、この時の経験が役に立つているな、と感じることがよくある。自由な時間がたくさんあつた学生時代にしかできない貴重な体験ができたと思う。

ただ、このような学生生活を送ると、私のように教採を何度も受けることになる。「勉強もちゃんととした方がいいよ。」と今の大学生には伝えたい…。

一年目。三年生九人の担任。全てが初めての経験で、不安いっぱいの私を「先生」と呼ぶ子どもたち。子どもたちの笑顔に励まされた一年でした。

二年目。「去年よりもパワーアップ！」を目標に、二度目の三年生の担任がスタートしました。個性豊かな十人と地域を散策し、七谷の自然やよさを発見することができました。

三年目。「自分のできる最高を！」を目標に、五年生九人と歩み始めました。様々な活動の中で、よさを發揮する子どもたち。高学年として学校のために頑張る姿に、勇気と感動をもらいました。

この三年間で、本当に多くのことを学びました。素直で心優しい子どもたちと出会い、経験豊かな先輩の先生方からの励ましがあり、今の私がありまます。初心を忘れず、これからも子どもたちの成長のために全力を尽くしたいと思います。笑顔で「できた！」「分かった！」と言つてもらえるようになります。

登り切ったときは、達成感というより安堵感でいっぱいでした。心の中で、自分を褒めてあげました。

さわやかな一日を過ごすことができました。登山つていいものですね。でも、やっぱりプライベートでは…。

昨秋、大学での授業以来、二十三年ぶりの登山をしました。重力に逆らって山を登ることは苦手なため、プライベートで登山をすることは決してありません。しかし今回は、現任校のPTA親子五頭登山ということです。

登山当日を迎えるまで、「自分は無事登り切ることができるのか。生きて帰ることができるのか。」という大きな不安が私を襲いました。

そして登山当日。最後尾を登るという任務を受け、引きつった表情で、緊張しながらのスタートでした。しかし、道中、親子のふれあいや普段の学校とはまた違う表情の子どもたちの姿をあちこちに見ることができ、さわやかな気持ちで登ることができました。

さわやかな一日を過ごすことができました。登山つていいものですね。でも、やっぱりプライベートでは…。





湯沢学園 開校記念式典 (2014.9.27)

## 学校紹介②

# オール湯沢で保・小・中一貫教育

## 湯沢町立湯沢中学校

### 一 学校の歴史と町の概要

当校は、昭和三十五年に旧中学校三校が統合して発足しました。昭和四十年に校舎を統合し、五十五年目にあたる本年度四月一日に、湯沢町の小学校五校が統合した湯沢小学校との一体型による一貫教育施設「湯沢学園」として新たな歴史を歩み出しました。

湯沢町は古くから三国街道の宿場町として知られ、川端康成の小説「雪国」の舞台となりました。川魚の宝庫である魚野川が流れ、山林が町面積の約九割を占めるなど豊かな自然に恵まれています。温泉やスキー・登山をはじめとするスポーツ、保養といった観光・リゾート地として人気を集め、年間四

百万人を超える観光客が来町します。最近では、「アルペンスキーワールドカップ二〇一六湯沢苗場大会」が開催されることが決定しました。

### 二 一貫教育の推進

当校は年齢差のある大勢の子どもたちが、かかわり合いながら多様な学びにつなげる「小中一貫教育」を進めています。その理念は、一体型の施設や関係機関の支援による「学校の森」だけでなく、学校運営協議会、後援会、PTA等の組織面にも及びます。平成二十八年四月には認定こども園やボランティアの拠点となる地域交流センターを含む湯沢町子育て総合支援センター（仮称）が併設されます。町唯一の

### 三 成果と課題

子どもたちは校舎移転や小学生との共同生活といった大きな環境の変化にも慣れ、真新しく機能的な施設で楽しく一生懸命に取り組んでいます。それ

は学校職員も同じで、小学校と一緒に校務センター（教務室）を拠点にしながら九年間の子どもの育ちにかかることができる幸運を感じています。

今後は、一貫教育初年度を振り返るとともに、小学校と共に保育園からの教育プログラムを意識しながら、実効性のある体制と計画をつくり、子どもたちを湯沢小学校と共に育てる意図から「オール湯沢」の言葉で通じています。

一貫教育の理念に基づき、教育目標「人を想い、我を磨く」とグランドデザインを湯沢小学校と共に育てる意図から「オール湯沢」の言葉で通じています。

同で行い、教科の経営計画や道徳、総

合的な学習、特別支援教育、生徒指導、防災教育等の小中九年間の全体計画を作成し、協働体制で取り組んでいます。清掃や挨拶運動、児童生徒会活動、体育祭や学園祭、登山遠足、学習参観などの行事も一緒に行っています。

## 平成二十七年

新潟大学首都圏同窓会総会  
(お茶の水ホテルジュラク)

11.23

教育学部教員・職員と同窓会との懇談会・懇親会

教育新報「第168号」発行

卒業式・祝賀会  
(新潟教育会館)

3.23

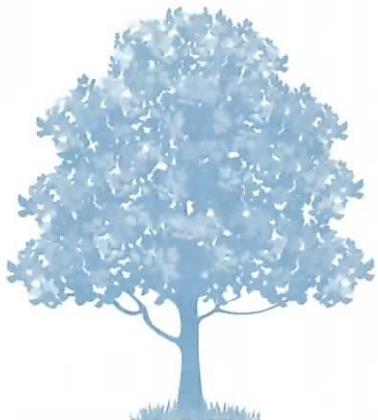
3.7

2.20

1.15



湯沢学園 体育祭 (2014.9.6)



(文責 田村 豊)

東映ホテル新潟

（朱鷺メッセ）

# 全学同窓会交流会の報告

広報部長 本間正人

平成二十六年度新潟大学・全学同窓会交流会が、十月十一日（土）にAN Aクラウンプラザホテル新潟で開催されました。



高橋姿新潟大学長の開会挨拶の後、新潟大学歯学総合病院フライトナースの宮澤舞子氏から「新潟大学ドクターへり」についてご講演いただきました。ドクターへりは、平成二十四年十月三十日から運航が開始され、これまでに約六百回、多い時は、一日六回の出動があつたそうです。患者の治療開始時間が、平均で二十六分短縮されたことや医師が乗り合わせて現場で救命救急医療を施すため、死亡患者が二十七%、後遺症患者が四十七%減少したことなど、ドクターへりの有効性が報告されました。映像を交えたお話から、命を守る日々の御苦労がよく分かりました。

引き続いて、いのちの落語家・作家である樋口強氏から「いのちの落語



笑いは最高の抗がん剤」という演題でご講演をいただきました。樋口氏は、新潟大学在学中に落語研究部の創設にかかわった方で、現在は全日本社会人落語協会副会長をされています。自分ががんを患い、手術と抗がん剤治療を乗り越えた体験をもとにお話をいただきました。人は、心のもちようで周りの景色も変わって見えること、どう生きるなら輝いて生きようと思ったこと、他人が笑うと自分も幸せになれるなど、多くの人生訓を教えていた

と、他人が笑うと自分も幸せになれるなど、多くの人生訓を教えていたときました。どんな時も生きる希望と勇気を持ち続けることの大切さを学んだ記念講演会となりました。

「学びはいかがですか。実り多いことを祈ります。」

宛名の文字を見ただけで、送り主が恩師の常木正則先生であるとすぐに分かった。今でも気にかけていただき、感謝の気持ちでいっぱいである。

現在、私は、新潟大学大学院教育学研究科に所属し、国語科教育学を専攻している。大学院への進学は、学部生時代からの目標の一つであった。

大学四年のとき、現職派遣の先生と同じゼミで学んだ。なぜ大学院に来たのかと尋ねると、学び直しがしたいということであった。研究心を枯渇させないということは常木先生の教えである。

大学院では国語科教育学だけでなく、日本語学・漢文学・古典文学・近代文學・言語学などの教科教育に関する講義も受講している。講義は、演習形式の発表が主である。時間をかけて一つ一つの語を調べ、考察する。学部の講義よりも学問的知識を要求されるため、簡単にはいかない。ただし、達成感と充実感は大きい。やりがいもある。

大学院の魅力は、様々あるが、まず

## 大学院生の声

### 出会いに感謝して

桑原浩一

（新潟市立新津第二小学校）

方をはじめ、現職派遣生の仲間、院生、ゼミの学生など、数多くの人たちとの出会いがあった。

中でも指導教官の小久保美子先生と出会えたことは、幸せの一言に尽きる。

小久保先生は、現行の小学校学習指導要領における作成協力者の一人であり、全国的な研究者である。いつも優しく丁寧に御指導いただいている。

学校現場では、大学の先生方から直接御指導をしていただく機会は少ない。一方、大学院では、ほぼ毎日といっていいほど自分の研究に対しても助言をいただける。これほど貴重なことはない。

また、学術的な学会及び研究会に参加できるのも大学院の魅力の一つである。書物の中でしか出会いうことのない著名な研究者にもお会いできる。人のつながりは、かけがえのない財産であるといつても過言ではない。

もうすぐ、大学院二年目に入る。在籍校で学級担任をしながら大学院に通うことになる。様々な出会いに感謝をしていきたい。

貴重な学びができる日々を大切に

## 教育学部との懇談会

# 大学と教育現場が相互理解と 交流を深めた懇談会・懇親会

交流部副部長 小竹智



安達徹会長

学部からはご多用の中、鈴木賢治学部長様はじめ、十四名の教員・職員の方々からご出席をいただきました。同窓会からは、安達徹会長以下十五名が出席しました。



鈴木賢治学部長

一月十五日（木）、新潟市中央区のじよいあす新潟会館にて、新潟大学教育学部教員・職員と同窓会役員との懇談会・懇親会が行われました。毎年、同窓会交流部が企画・運営する事業で、今年度も多くの方々にご参加いただき、相互の交流を深め、今後の方向性を探る有意義な会となりました。

懇談会の開会の挨拶で、安達会長より、勤務校での卒業生や学生ボランティアの活躍についての紹介と学部への感謝の言葉がありました。また、全国で活躍を続ける同窓生の組織の充実を図つていくという話がありました。続けて、鈴木学部長様から、卒業生に対する指導・支援に対する感謝の言葉がありました。その後、学部の現状や課題について説明していただきました。

学部・採用が有利になる資格は何か。A.. 幼小中高交流や小学校英語などもあり、複数の教科や校種の免許が有効である。

A.. 通常学級にも特別な支援をする子どもがいる。免許の有無にかかわらず、特別支援教育の指導力を身に付けさせてほしい。外国籍の子どもたちに対応できるような語学力もあるとよい。

同窓会.. 教職大学院で現職教員が学ぶ場合、大学院派遣以外にどのようないかわらず、特別支援教育の指導力を身に付けさせてほしい。外国籍の子どもたちに対応できるような語学力もあるとよい。

A.. 勤務校をサテライトにしたり、夏休み中に集中して授業したりするなどの対応も考えてい

る。とともに、現職教員に質の高い研修の場を保障することが求められている。平成二十八年度より開設される教職大学では、ミドルリーダーとして活躍できる人材を育成していきたい。学部卒業生の教員採用率をさらに伸ばすためには、各教育実習校で、学生の目的意識や教員になりたいという意欲を高めるような実習をしてもらえるとありがたいなどの話がありました。

その後、同窓会の各専門部（研修・広報・組織・交流・事務局）から今年度の事業概要の報告を行いました。

意見交換では、学部と同窓会で相互に、次のような質疑応答や提言がされました。

最後に三間強副会長から、同窓会に貢献できるのかを考え、知的集合体として取り組んでほしい。

最後に伊藤克美副学部長様の乾杯のご発声で開宴となりました。

懇談会で出された課題の解決に向けて、学部と現場の相互の取組についての情報交換や教職大学院への期待などを語り合いました。時間が足りないことが大変残念でしたが、学部と同窓会との懇親を大いに深めることができました。

最後に、臼杵勇人副会長より挨拶があり、人材育成と教育力向上に向け一層の連携を確認し、閉会となりました。

## 大学のコーナー

### 今こそ「一揆」の時

教育学部准教授

角谷聰

私は平成十六年の十月に新潟大学教育学部に着任して以来、国語科で主に漢文教育に携わってきた。先日も「漢文学特論」という授業で、五経の一つに数えられる『書經』の序文を読んでいると、「雅誥奥義、其帰一揆。」(雅誥奥義、其の帰は揆を一にする。)という一文が目にとまった。「一揆」の二字からは、手に竹やりを持つた農民による代官屋敷の襲撃、あるいは越後にほど近い越中や加賀で猛威をふるった一向宗の争乱、等を思い描かれる方も多いかと思われる。しかし、「一揆」とは本来、暴動や争乱と全く無関係の語で、「揆」は道理や理念を指し、「一揆」とはすなわち、道理や理念を同一にする、という意味であった。

なお、「一揆」を逆にした「揆一」という語も、四書の一つである『孟子』に見える。中国で伝説時代の帝王とされる舜は東方に生まれ、舜帝より千年以上後に、周という王朝を建てた文王は西方に生まれた。この様に二人は生まれが千年以上隔たり、場所も千里以上離れている、と記した上で、「先聖

後聖、其揆一也。」(先聖後聖、其の揆は一なり。)と、先の聖人たる舜帝と後の聖人たる文王は、理念を同じくする優れた帝王であったことが述べられている。「一揆」や「揆一」という語

は紀元前から存在していたのか、などとささやかな発見の日々を楽しむうちに、気づくと着任から八年が過ぎていった、というのが正直な思いである。

もつとも、近頃は専ら漢文ばかり眺めているわけにもいかず、『書經』の序文で「一揆」という語に出会った翌週には、燕市の公立小学校に赴いた。これは、燕市教育委員会と新潟大学教育学部の間で四年前に始まった連携事業の一環で、私は約半年の間に計六回、同一小学校で行われる校内授業研修に指導助言者として携わる機会を得た。当日、先生方とよもやま話をしていた際、こちらの小学校では毎回、研究授業の前に教職員の間で指導案検討や模擬授業を入念に行い、そこには教務主任や教頭先生をはじめ、時には校長先生も参加されると聞き、これぞまさに教育現場における「一揆」では

ないかと感じた。なお、ここでの「一揆」とは、私が悪徳代官の如く小学校の先生方に無理難題を押しつけた挙げ句、それに堪えかねた先生方が竹やりを手に私を襲撃する、との意味ではないことを、念のため補足しておく。

冗談はさておき、道理や理念を一つにして、一致団結の上で目標に向かう姿勢は、実は大学教員にこそ、喫緊の課題と言える。目下、新潟大学教育学部は教職大学院の設置をはじめとする各種改革のただ中にあり、大学全体を見ても、大規模改革が待ったなしの状況である。こうした中、大学教員は四書五経が記す所の「一揆」の気運を高めるべきであり、ここに本学部同窓生の皆様のお力添えが加われば、「農民に竹やり」ならぬ「鬼に金棒」であろうと思われる。同窓会の構成員である卒業生・修了生の皆様、及び大学教員は、世代も出身地も様々であり、この点では『孟子』に見られた舜帝と文王の関係に等しいと言えよう。教育学部、ひいては新潟大学が難局を乗り切る上で、同窓生の皆様と「一揆」の関係を更に強化できるよう切に願っている。

同時に、同窓生の皆様が学校現場で研修等に臨まれる際、助言者をはじめ様々な形で大学教員が「一揆」にご協力できれば、これまで大いなる幸いと考へる次第である。

### 事務局から

お詫びと訂正

先の「教育新報167号」の教員異動の欄に、一部誤りと講師の先生方の掲載漏れがありました。  
関係各位には深くお詫び申し上げます。

教授 大浦容子 (以下敬称略)  
退職・副学長→退職、理事・副学長

講師 檜皮貴子 保健体育科  
鈴木愛美 音楽科  
清水文博 書道科  
田中雄二 学校教育学  
(平成25年8月1日付け)

○新しくおいでになった先生  
准教授 土佐幸子  
↓教授 土佐幸子  
(平成26年4月1日付け)

講師 講師  
講師 清水文博  
講師 田中雄二  
(平成26年4月1日付け)

もうすぐ平成二十六年度が終わります。しっかりと締めくくり心新たに新年度を迎えたいものです。

教育新報二六八号をお届けします。  
一年間、関係の皆様には、ご協力をいただきましてありがとうございました。これからも、会員の皆様の声を載せていくたいと思います。会員の情報などがありましたら、事務局までお知らせください。

### 編集後記